

第 1 回神奈川県中小企業・小規模企業経営の未病改善検討会 結果概要

日時：平成 30 年 3 月 29 日（木）10 時 00 分から 11 時 30 分

場所：（公財）神奈川産業振興センター 大研修室（神奈川中小企業センタービル 6 階）

1 開会

2 あいさつ

3 議事

(1) 本検討会の名称その他について

(2) 県内の中小企業・小規模企業の現状及び企業経営の未病状態の気づきの提供について

1 開会

（事務局より、開会及び資料の説明）

2 あいさつ

（中小企業部長よりあいさつ）

3 議事

(1) 本検討会の名称その他について

ア 本検討会の名称について

本検討会の名称を「神奈川県中小企業・小規模企業経営の未病改善検討会」とする案について諮ったところ、異論はなく、了承された。

イ 本検討会の非公開について

本検討会について、意見交換にあたり、経理に関する情報等事例を意見交換の題材として用いることが想定されるため、非公開とし、検討結果の概要を県のホームページで公表することについて了解された。

(2) 県内の中小企業・小規模企業の現状及び企業経営の未病状態の気づきの提供について

ア 県内の中小企業・小規模企業の現状について

事務局より、資料 1 から資料 3 を用いて県内の中小企業・小規模企業の現状を説明し、出席者から中小企業・小規模企業の状況に関する意見が出された。

主な意見は以下のとおり。

- ・事業承継に取り組む企業が出てきている一方で、今の事業は自分の代限りとして事業承継に取り組んでいない企業や、事業承継の必要性は感じているが問題を先送りしている企業が多い。
- ・本県では、川崎市は政令指定都市の中で人口増加が日本一である一方で、横須賀市は人

口減少が日本一といったように、県内でも異なる状況がある。中小企業・小規模企業においても同様に地域間で異なる状況があることから、支援に際しきめ細やかな対応が必要になる。

- ・人手不足も深刻な課題であり、外国人の活用も含めて検討していく必要がある。

イ 中小企業・小規模企業支援施策の活用状況について

事務局より、資料 4 から資料 8 を用いて本県の中小企業・小規模企業支援施策について説明し、合わせて座長から経済産業省の「ローカルベンチマーク」（資料 9）をはじめ、神奈川県事業承継ネットワークや新潟県が作成した事業承継に関するリーフレット（資料 10 及び資料 11）が示され、これらの活用状況について出席者に伺ったところ、以下のような意見が出された。

- ・ローカルベンチマークを用いて企業と対話をすることで、企業に必要な支援や改善点を見つけるきっかけとなっている。ツールは共通理解のため有効。
- ・気づきのツールを用いて経営上の課題を発見する企業は徐々に増えているが、枠に記載していくようなやり方ではなく、経営者が自分で選択肢を選んでいくことで課題が発見できるような、簡単に組みめるツールがあればよいと思う。

ウ 企業経営の課題を放置しない支援策について

座長から資料 13 について説明し、事業承継に限らず、企業のライフステージごとに潜む経営上の課題があり、そういった課題を企業がより簡単に気づくことができるようなツールについて、本検討会で議論していきたい旨を提案したところ、了承された。

その際に出された主な意見は以下のとおり。

- ・融資に関する条件変更を行う時点で、その企業の経営状況は下降していることが多いため、条件変更をする前に支援していくことが重要。そのため、経営状況が下降する前に経営課題に気づいてもらうような機会の提供は非常に有意義。
- ・企業経営の未病改善という考え方は大賛成。本来は、金融機関に相談してほしいと思うが、企業からすれば融資を受けている金融機関に経営状況の相談をしにくいと感じて、結局相談しないという状況になっている。そのため、企業の事業評価を正確に理解できるツールを企業に提供するという事は良い取組。
- ・企業は自身の強み・弱みをきちんと認識していないところが多い。気づきを提供するツールを開発したとして、それをどのように活用していくかが課題。企業は、そのツールを使うことで得られるインセンティブがないと活用しないので、活用されるための仕掛けづくりが必要では。
- ・気づきのツールを開発するのみならず、ツールを活用した後、最終的にどこに繋げていくかが重要。

(3) 今後のスケジュールについて

事務局から今後のスケジュール（案）について説明し、第 2 回目を 4 月頃に開催し、その後 2 カ月に 1 回程度の間隔で計 5 回開催すること、10 月に中小企業・小規模企業の経営改善の気づき手法の提供を試行し、12 月から同手法の提供を実施する方向で了承された。